

老人クラブ運営等事業費補助金の方向性について

委員名	方向性	理由など
大石委員	現状維持	加入者数、加入率は減少しているものの、高齢者の交流の場として老人クラブは必要であると思う。補助金は現状維持としたいが、加入率、加入者数に見合った金額とすべきである。
間淵委員	縮 小	加入率が向上しないなら、縮小を検討。ただし、縮小がさらなる加入率低下を招くという負の循環に陥る懸念がある。よって、数年間は加入率目標を設定し現状を維持し、目標を下回れば縮小していくというように猶予期間を設けることも検討したい。
藤田委員	縮 小	加入人数に見合った補助金制度への見直しは仕方ない。
白井委員	現状維持	介護等、高齢者向けのサービスが充実化している現在、高齢者が老人クラブに何を求めているかを分析・検証・改善することが補助金制度の検討より優先事項であると考えます。
金原委員		拡大または縮小 人生100歳時代の中、高齢者が地方自治の中心となる可能性もあり、高齢者の活動支援として老人クラブが存在することは意義がある。現状を維持する事業ならば補助金は「縮小」する。しかしながら事業を刷新するならば補助金を「拡大」しても良いと考える。
近藤委員	廃 止	老人クラブに入っている人しか対象にならず、加入率の向上が見られないのなら廃止。 でも、この補助金の「期待する効果」にあげられている事を取り組むべき事なので、それを市民の皆さんに対して行っていく。
辻岡委員	縮 小	条件付きの縮小に賛成です。老人クラブへの加入者が増加した段階で、自己財源が増えると思われますので、加入者が増えるまでは現状維持、加入者が増えた段階で縮小をすればよいと考えます。
澤木委員	縮 小	この先、何の見直しもされないまま、一部の人しか恩恵を受けることができないような補助金制度が続いて行くことは、非常に良くないことだと思いますし、老人クラブとしての本来の目的が達成されないのは無意味です。今の補助金額のまま続ける場合は、まずは、一人でも多く、加入者数を増やせるように、今一度、60歳以上の主体者に、会の在り方や各種事業について、より一層魅力のあるものとなるように話し合ってもらい、リニューアルすべきだと思います。会員数が、全体の過半数以上となるまでは、掛川市並みの補助金額（一人650円くらいで計算）、もしくはそれ以下に見直した方が、不公平感が無くなり良いと思います。
鈴木委員	縮 小	高齢者福祉という観点からは補助金は必要不可欠と思われるが、加入者の減少、加入率の低さから見るとそれに見合った減少もやむを得ないのではないかと。

集 計				
	拡 大	現状維持	縮 小	廃 止
事前調査	0	2	5	1
審 議 会				